

# 「脱炭素はだの市民会議」会議録

## 第2回市民会議

日 時 : 2025年9月6日(土) 13:00-17:00

会 場 : 上智大学上智短期大学秦野キャンパス4号館 411号室

参加市民: 33名

情報提供者: 平山 世志衣氏 (NPO 法人横浜 LCA 環境教育研究会代表)

大塚 彩美氏 (脱炭素はだの市民会議実行委員会委員)

全体ファシリテーター : 岩崎 茜 (サイエンス・コミュニケーター)

### I. 目標

アウトカム

- ・カーボンフットプリント(CFP)を通して、どのような行動が脱炭素につながるのか、そして消費行動を変えることが社会を変えることにつながることを理解できている
  - ・地域の現状をふまえ、脱炭素行動を進めるにあたっての可能性や課題が見えてきている
- アウトプット
- ・(第3回のテーマ別検討につながる) 地域の文脈で考えた脱炭素アクションを進めていくうえでのポテンシャルとハードル(可能性と課題)

### 2. 会議の進行方法

〈タイムスケジュール〉

時刻	内容
13:00	開会・オリエンテーション Day 1 のふりかえり
13:15	チェックインとグループワーク①: 脱炭素アクションの感想の共有
13:35	情報提供 1 : カーボンフットプリントを通して考える社会の脱炭素 NPO 法人横浜 LCA 環境教育研究会代表 平山世志衣氏
	グループワーク② : 感想と質問の共有
14:05	休憩
14:15	質疑応答
14:30	席替え～自己紹介
14:40	情報提供 2 : 秦野市の地域特性と脱炭素のつながり 脱炭素はだの市民会議実行委員会委員 大塚彩美氏 質疑応答
15:20	グループワーク③ : 地域で脱炭素アクションを進めるときの期待と課題 (各グループで適宜休憩をはさむ)

16:10	全体共有と投票
	次回に向けて 閉会挨拶　： 脱炭素はだの市民会議実行委員会委員 吉田秋恵氏
17:00	終了

### 3. 会議の記録

#### (1) 開会挨拶、オリエンテーション、チェックイン

はじめに、メインファシリテーターの岩崎氏から、タイムスケジュールと全体的な流れについての説明。前半は前回と同じグループワークのメンバーで、前回会議後にやったアクションについての感想を共有し、その後、改めて専門家からカーボンフットプリントの話を聞く。後半は、新たに地域別のグループに分かれて、自分たちの地域でどんな可能性や課題があるかについて具体的な議論する。グループワークの機会が 3 回あり、時間も前回に比べて多くとっていることなどについて説明した。また、良い話し合いのために注意すべき点などについても改めて触れた。

#### (2) 第 1 回会議の振り返り

実行委員会事務局の村上が、「2050 年こんな秦野であってほしい!」を描き、「脱炭素」とのつながりを見つけることを目標にした前回市民会議の事後アンケート結果について紹介。気候変動と脱炭素の概要や、秦野市の脱炭素政策の取り組みの情報提供については、「非常にわかりやすかった」「わかりやすかった」の合計が約 6 割だったが、「もっと具体的に学べることを期待」「秦野市としての目的があまり見えない」などの意見があった。グループワークについては、「よくできた」「どちらかと言えばできた」の合計が 7 割程度いたが、1 割強から「メモや話し合いの時間が短かった」「焦点がぼやけて議論が難しかった」の意見があった。運営や進め方についてのコメントにはどのように対応したかが説明された。

「市民提案の形やそれに至るプロセスを見通したい」という声を紹介したうえで、他の市民会議での例を示しながら提案の形を説明、また全 4 回の流れ・全体像について改めて説明した。

岩崎氏は第 1 回のグループワークの結果をどのように取りまとめたか説明。各グループの結果を書き起こして全体で統合、「ありたい秦野の未来」と「脱炭素対策」ごとに類似のものを分類し、関係性を示す相関図に示した。

### (3) グループワーク①(実施した CFP 診断と脱炭素アクションの感想の共有)

岩崎氏がグループワーク①の進め方についてガイダンス。第1回会議後に、参加者が実施した診断結果の特徴や試みたアクションリストの感想をワークシートに書いて、グループ内で共有する。どんなアクションを実践している方が多かったか、どのアクションするのが難しかったかを知るため、アクションリストを集めて、全体で集計する。

参加者は約 20 分間、前回と同じメンバー（欠席者の都合で一部変更あり）の 8 グループで、各自が実施した脱炭素チャレンジ(CFP 診断)と脱炭素アクションの結果や感想について共有した。

### (4) 情報提供 Ⅰ:カーボンフットプリント(CFP)を通して考える社会の脱炭素(平山世志衣氏)

NPO 法人横浜 LCA 環境教育研究会代表の平山世志衣氏が、改めてカーボンフットプリントについて解説。CFP とは、原材料調達から廃棄・リサイクルまでの温室効果ガスの総排出量を、CO<sub>2</sub> に換算して示し、「どこ」で「どれだけ」排出しているかを「見える化」することで排出源の特定や削減の工夫が可能になる効果がある。各グループには、参考として CFP とトランプを組み合わせたカードゲームが配られた。

平山氏は、暮らしにおける CFP の具体例を説明。住居では、電気・ガス・灯油などのエネルギー使用が CO<sub>2</sub> 排出に直結しており、LED 照明や太陽光発電の導入で大幅な削減が可能のこと。

移動では、自動車、飛行機などの移動手段による排出量の比較や EV(電気自動車)は走行時の排出が少ないが、製造・電力供給に注意が必要なこと。公共交通機関や自転車の方が CO<sub>2</sub> 排出量は少ないと。

食では、食材の生産・調理・廃棄までのそれぞれの過程で CO<sub>2</sub> が排出されること。肉類は特に排出量が多く、食材選びや食べ残しの防止が重要なこと。

消費財では、スマートフォンや衣類などは、製造・使用・廃棄までの過程で CO<sub>2</sub> が排出され、長く使うことで排出量を抑えられること。マイバッグとレジ袋の比較では、使用回数によって環境負荷が逆転すること。

そのうえで、モノを選ぶ、使い方を変えるという暮らし方の工夫によって、脱炭素につなげることができ、私達の暮らし方・選択が、企業活動や社会の仕組みを脱炭素化へと変えていく力にもなることを強調した。

## (5) グループワーク②(CFP 解説についての感想の共有と質疑応答)

岩崎氏からグループワーク②の進め方についての説明があった。まず、CFP の解説を聞いて、大事だと思ったことや感想をふせんに書き、模造紙に貼る。似た意見の付せんは、近くに集める。質問したいことがあれば右に貼る。前回と同じグループで、この方法による話し合いが持たれた。

## (6) 質疑応答

休憩中に CFP 解説についての各グループの質問が集められ、岩崎氏が代表して平山氏に質問した。

質問 1:再エネ、再エネと何度か出てきたが、具体的には何か。
回答:再エネとは、再生可能エネルギーの略。発電時に CO2 排出がないエネルギーで、太陽光や風力、バイオマスなどがある。
質問 2:LCA と CFP との違いは何か
回答:カーボンフットプリント(CFP)は、ライフサイクルアセスメント(LCA)の方法で計算した CO2 排出量のこと。原材料調達から、製造、使用、廃棄までのライフサイクル全体から出るすべての排出量を考えるのが LCA で、それを計算したものが CFP。LCA という方法は、水やエネルギー、資源、大気汚染など、ほかのいろいろな環境問題についても計算できる。
質問 3:太陽光発電は、電気を安定供給できるのか。耐用年数を考えても効果があるのか。
回答:スライドで示したのは、電力中央研究所が、いろいろな発電方法を同じ条件で発電した場合の CO2 排出量を比較したもの。太陽光パネルを製造して廃棄するまでの一般的な寿命の中で、どれだけ発電し、CO2 を排出するかを計算した平均的な数値。天候などで供給が不安定になった場合も加味している。各家庭での個別ケースは計算に入れていない。
質問 4:太陽光発電に関して、資料にある住まいの CFP のグラフの数値と、アクションリストにある数値に違いがあるのはなぜか。
回答:私が見せたのは、電力中央研究所が計算した太陽光と他の電力の 1 キロワット時の CO2 排出量を、家庭の 1 年間の電力使用量に掛け合わせた数字。アクションプランにある数字は、多分、ある住宅モデルで太陽光を入れた場合の数字なので、計算の仕方が違っている。同じ計算方法でないと比較はできない。CFP トランプのカードの EV の数字も、EV メーカーのものとは同じではない。

## (7) 市民の役割について再確認

岩崎氏は、横浜市や京都市での例を取り上げ、よりよい脱炭素アクションが住みよい街づくりや、ライフスタイルを支えるものをよりよくしていくことにつながっていると強調。市民が自分たちにできる

アクションに取り組み、自分たちだけでは実現できないことを、市や国、事業者に要望し、協力を求めることで、社会の変化を促し、さらにライフスタイルや行動の変化につながっていくサイクルを図で示した。

#### (8) グループの組み替えと自己紹介

地域別に分かれて、秦野の未来と脱炭素のつながりを話し合うため、グループを組み替え、席を移動(別紙参照)。新たなグループ内で自己紹介などを行った。その後、グループワーク③のながれと前回のグループワークの結果について、岩崎氏から説明。脱炭素アクションの4テーマの候補として①秦野の地域資源を生かす②移動、交通③住まいや暮らし方④食と消費が示され、この中から二つを選ぶ投票のやり方についても説明した。

事務局の村上から、参加者が第1回市民会議後に取り組んだアクションを取りまとめた結果の速報が報告された。

#### (9) 情報提供 2:秦野市の地域特性と脱炭素のつながり(大塚彩美氏)

グループワーク③の前に、大塚氏から秦野市の地域特性について情報提供。政府・自治体のオープンデータなどから抽出した基礎情報をもとに、脱炭素社会の実現に向けたチャンスと課題について解説。この中で大塚氏は、同じ市内でも地域によって、特性や目指す姿が違うことにも触れた。秦野市の特徴としては以下のような点を挙げた。

**全体** 秦野市は神奈川県唯一の盆地で、丹沢山系と渋沢丘陵に囲まれた自然豊かな地域。地下水が豊富で「名水の里」として知られ、名水百選にも選ばれている。総人口は約16万人。2010年をピークに減少傾向。高齢化率は2025年時点で31.4%、2045年には42%に達する見込み。中心市街地でも高齢化が進行中。

**交通** 小田急線4駅、東名・新東名高速道路、国道246号が市内を通る。公共交通の利用率は低く、自動車依存度が高い(約49%)。一部地域では交通空白・不便地域が存在し、コミュニティタクシーなどで対応。

**エネルギー** 再エネのポテンシャルとしては、太陽光(建物・土地)、陸上風力、小水力など。地域資源として森林も有望。

**農業・食料** 農業経営体数は822、主な作物はキャベツ、だいこん、ねぎなど。地産地消の取り組みとして、学校給食への地元食材供給率は30%。ごみ削減策として、生ごみ持ち寄り農園による堆肥化・循環型農業を紹介。

**商業・観光** 施設は駅周辺に集中。観光資源として丹沢表尾根、弘法山、鶴巻温泉など。観光客数はコロナ禍を経て回復傾向にあるが、ごみや交通渋滞などの課題もある。

情報提供後、質問があるか訊ねたが、特に出なかった。

#### (10) グループワーク③地域で脱炭素アクションを進めるときの期待と課題

地域別グループに分かれて、脱炭素アクションの話し合いを深めることを目的に、自分の地域で「できそう」「進めたい」などの期待と、実施するのが難しい課題を見つけるために約 50 分間、話し合った。手順は以下の通り。

各グループは、第 1 回会議の結果まとめをもとに、脱炭素アクションの 4 テーマの候補①秦野の地域資源を生かす②移動、交通③住まいや暮らし方④食と消費から、自分の地域で特に注目したいテーマを 2 つ選ぶ。次に「できそう!進めたい!」アクションと、「実施が難しそう」なアクションを出し合いながら、ふせんに書いて模造紙に書き出していく。できそうなアクションはピンクのふせんに、実施が難しそうなアクションは青のふせんに、それぞれ理由とともに書き出す。

#### (11) 全体共有

全体共有は以下の手順で行われた。8部グループを 4 グループずつに分け、自分のグループ以外のテーブルの上にある模造紙を見て回る(3 グループ 3 分ずつ、その後の 5 分間はどこを見ても良い)。共感するふせんにシールを貼る(1 グループごとに 1 人最大 3 枚)。その後、自分たちのテーブルに戻り、模造紙に貼られているシールを見て、グループ内で感想を述べ合う。

グループ	概要
A (中央 1)	<p><b>住まい・暮らし</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・断熱リフォームについてテレビや広報で知らせる。詐欺もあるので正確な情報を知りたい。アパートに住んでいるとできないことがある。</li><li>・太陽光発電について建て替え時に補助金のことを知らせる。再エネを使う電力の情報が分かりづらい。市の広報や仕組みづくりが必要。</li><li>・省エネが経済的にもプラスになることをアピール。</li></ul> <p><b>食と消費</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地産地消のものが買えるように、無人販売所マップを作る。スーパーの地産地消のものは高いので物流費をなくすなどで価格を抑える。</li><li>・農家と市が連携して情報をホームページで知らせる。</li><li>・買い物は必要なものだけ。過剰包装をなくす。</li></ul>

<b>B</b> (北部)	<p><b>移動・交通</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>EVに切り替える。充電ステーションを増やし、その設置場所の案内を増やす。</li> <li>自転車利用の拡大のために道を整備する。坂が多いので、電動アシスト自転車の購入に補助金を交付。</li> </ul> <p><b>食と消費</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「じばさんず」の利用。兼業農家を増やす。</li> <li>野菜栽培を拡大したいが、つくる場所がなく、土地の確保が難しい</li> <li>農機具のレンタル。レンタル畠の情報を公開。</li> <li>耕作放棄地の利用。</li> <li>家庭の生ごみを直売所で回収して農家に届ける。異物の混入が問題になる可能性あり。</li> </ul>
<b>C</b> (東部 1)	<p><b>食と消費</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝市やスーパーで地元産の食材を選ぶ。</li> <li>CFP の低い献立例をパンフレットで紹介。給食の献立に CFP の低いメニューを入れる。</li> <li>食材をバラ売りする。ゴミ出しルールを徹底する。</li> <li>市が農家から作物を購入し、市の各施設で販売。公共交通利用の際にそこで使える割引券を配布する。</li> </ul> <p><b>移動・交通</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティバス・タクシーは、ベビーカーが積めない、混んでいる時間帯など利用したい時に乗れない。コースや地域を増やせば利用する。停車場の確保やスマホ予約に不慣れな高齢者の利用に難がある。</li> <li>市の公用車をエコカーに切り替える。自家用車を EV にする。だが、費用がかかる。</li> </ul>
<b>D</b> (中央 3)	<p><b>食と消費</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「じばさんず」のような店をたくさん作る。市が JA と提携して増やす。市の積極的なPR。</li> <li>地場野菜をインターネット販売などで買いややすくする。落花生、わさびなどの地場野菜のブランド力が不足している。</li> <li>以前は主要作物だったそば栽培を復活させたいが、カラス被害への対応が大変。</li> </ul> <p><b>地域資源・ソーラーシェアリングの推進。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業と山林の相乗効果による地元活性化。農業の後継者不足と高齢化が課題。</li> <li>農地の相続税の減免。</li> <li>山地を活用したいが、管理が大変。市のサポートやイノシシ、ヒル対策が必要。間伐材の活用。</li> <li>ジビエの普及と消費拡大。ハンターを増やす。</li> </ul>
<b>E</b> (西部 2)	<p><b>移動・交通</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>路線バスにこだわらないコミュニティタクシーなどの充実。ただし地域によって差があり、西地区内でもいろいろ、歩行圏内、坂あり、遠いなど。バス・タクシーに優待・割引をつけて利用者を増やす。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電動キックボードの利用・充実。歩移動を増やす。OMOTAN POINT 化。</li> <li>OMOTAN コインの活用(エコポイント)。</li> </ul> <p><b>食と消費</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイバッグ・マイカゴに秦野市独自のデザインを付ける。</li> <li>・食品トレイの削減。量り売りできる品物をふやす。袋とトレイを選択できる店(MAMさん、鶏肉)。</li> <li>・貸し出し農場などでコンポスターの設置数を増やす。ただし、不法投棄などルールを守らない人が出てくる恐れ。市民農園などに共用コンポスターの設置。</li> <li>・地産地消の推進。高くつくのが難点。</li> </ul>
F (西部 1)	<p><b>移動・交通</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスの利用拡大と楽しく歩きやすい歩道の整備。</li> <li>・市役所主催のカフェや歩いてきた人フェスの開催。</li> <li>・EV の導入拡大と、そのための国や市の助成金。</li> </ul> <p>地域の集合宅配 BOX の利用と設置。設置場所がなく、冷蔵対応が難しい。</p> <p><b>食と消費</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元のものを売っている店が近くにある。</li> <li>・集合コンポストの設置。ゴミ袋有料化。</li> </ul> <p><b>地域資源</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空地を利用して太陽エネルギー住宅を建てる。</li> </ul>
G (東部 2)	<p><b>移動・交通</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通勤や買い物での車利用(現在)を、公共交通の利用に切り替える。</li> <li>・コミュニティバスの本数を増やす。</li> </ul> <p>交通アプリや QR コード利用等での予約や日時検索ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティタクシーでピンポイントで行ける場所を増やす。タクシーや公共交通機関の料金負担補助や無料化。</li> <li>・EV タクシーを増やす。EV 車への切り替えは、費用がかかり、充電施設・場所が少ない。</li> <li>・自転車利用のための専用道路がない。</li> </ul> <p><b>食と消費</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元での消費を増やすために駅前・市内の産業、飲食店を活性化(鶴巻温泉駅、東海大学駅)。学生が利用できる地産地消の店を増やす。エシカルな事業所と秦野市のコラボ。</li> <li>・不要なものを買わない。個包装のものを避ける。</li> <li>・自宅での食品ロス削減のため、食品の小分けや量を決める。</li> <li>・生ごみコンポストの設置。</li> <li>・地産地消の拠点を増やす。農家が減少している。</li> </ul> <p><b>その他</b></p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人居住者に(脱炭素行動について)アプローチする→秦野市にも外国人が増えており、外国人にも脱炭素行動を伝える必要ゴミ出し・消費活動などの脱炭素につながる行動を外国人などにも伝える。</li> </ul>
H (中央2)	<p><b>移動・交通</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車利用の機会を増やす。そのための街路樹の管理。自転車専用レーンなどの整備。</li> <li>・歩活やポイ活を利用して楽しくCO2排気量を減らす。地元スポットでポイント交換。歩道の整備。秦野市用の歩数計アプリ。</li> <li>・山側で車が利用できない人のためのコミュニティタクシーや循環バス。</li> </ul> <p><b>住まい・暮らし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光パネルの効果はあるが、費用や耐久性など地域全体でやるには課題も多い。補助金制度の情報提供の改善。</li> <li>・エアコン掃除のための補助金。エアコン室外機の日除けカバー。</li> <li>・省エネ家電への買い替え。コタツの利用。</li> </ul>

### (12) 次回に向けて

事務局の村上から、10月11日に開催予定の次の市民会議の進め方と、次回までにお願いしたいことの説明を行った。次回は4テーマ(①秦野の地域資源を生かす、②移動、交通、③住まいや暮らし方、④食と消費)で提案を検討するが、参加市民はひとり2テーマの話し合いに参加する。どのテーマに参加するかはアンケートで希望を取るが、参加者のバランスを取るために、第3希望まで出してほしいと依頼。また、第3回会議までの間に、新たに脱炭素アクションにチャレンジし、事前に感想や課題を克服するためのアイデアなどを提出してほしいと伝えた。

### (13) チェックアウト&閉会挨拶

各グループ内で、それぞれが一言ずつ感想を述べて共有し、拍手。最後に同市民会議実行委員会委員で湘南生活クラブ生協理事の吉田秋恵氏が「次回は、テーマごとに、より具体的な話し合いがされるのを期待している」と述べて、第2回会議は終了した。

以上